

■今月の特選句

2024年9月



白地着て筋金入りのへそ曲り

白井道義

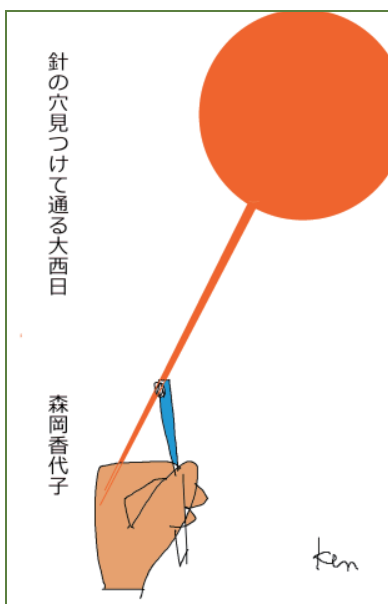
暑い季節は、白色の衣服が涼やかでいい。白地は夏の和装ですな。筋金入りは本格的なへそ曲りというわけだ。「浴衣着て」ではさまにならない。



逢ひ引きの蚯蚓しの字に干涸びて

寿命秀次

雨の後は土中に水が入り込んで空気が減り、酸欠になるので、蚯蚓は地上に出て来るのだとか。土中でゆっくり逢えばよかったが油断したのだ。



針の穴見つけて通る大西日

森岡香代子

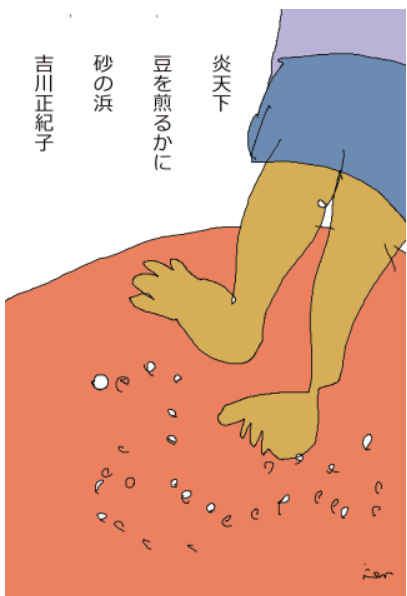
大西日はどんな所だろうと見逃したりはしない。最近は狭い所はちょっと苦手なんてことはないのだ。そこに大西日の存在感というものがある。



なめくぢり進む原理が解らない

棕本望生

なめくじは「足波」と呼ばれる筋肉で動く。滑りをよくして、皮膚を守るために粘液を出しながら進む。しかし、原理が解らないからこそ詩になる。



炎天下豆を煎るかに砂の浜

吉川正紀子

炎天下の砂浜は裸足では歩けない。焼けたフライパンの上に乗るようなものである。豆を煎るかにとはよくぞ言ったりだね。熱消毒にはいいかもね。



生ビール一杯二杯が五六杯

細川岩男

簡単なつくりの句だが、分かりやすく共感と呼ぶ。その場の雰囲気もよく出ている。日常のヒトコマが言葉のスナップ写真として切り取られた。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

シャッター街は過去へのトンネル八月尽

・・・みんなネットで買ふからいかん

日根野聖子

黄の付箋肘にはりつく残暑かな

・・・赤い舌だしかき氷食べ

浜田イツミ

老鷲のみだりに外す節回し

・・・谷渡りにも長短のあり

西野周次

聞こえぬか聞こえぬふりか夕端居

・・・身元不明で誰そ彼はと

長井多可志

すててこですとことどっこい朝昼晩

・・・ひがないちにち軽佻浮薄

土屋泰山

退屈の風鈴風のパンチ待つ

・・・手応えのある相手が欲しい

井口夏子

ゆらゆらかふらふらなのか夏の蝶

・・・暑すぎるからよれよれなのよ

稲葉純子

ハンカチを貸して別れてそれつきり

・・・安物だからよかつたけれど

ほりもとちか

吐く息に極暑の色のありにけり

・・・吸ふ息にある焦げる臭ひよ

大林和代

ひと切れの西瓜を食べるいのちかな

・・・命をいただき命をつなぐ

岡本やすし

浴衣着てラムネしゅわっと夏祭

・・・夜店ひやかしだらだら歩く

梅野光子

片蔭に卒爾乍らと火を借りて

・・・風を背にして手で庇ひつつ

伊藤浩睦

依怙毚臯ばかりしている流れ星

・・・流れる時に目をとちる癖

永井流運

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

寝そべりて大パノラマや夜の秋

紅の蓮の開花を音にきく

天狗の団扇ダルマの団扇にらみあふ

単身赴任竹婦人とはアホらしい

犬猫も祀られる世や秋彼岸

台風禍置き土産してドロンする

打水や余生楽しき翔タイム

暑くて閑大谷中継無いときは

すぐ貯まる暑いと言うたび罰金なら

炎天を来る人みんな怒り顔

空蟬となりて黒目を失へり

ふっくらぼってりこれぞ美少女五輪の星

夕涼みそれも冷房硝子越し

炎天に持病の癩と女掏模(すり)

萬有の真相不可解滝に死す

ナナハンのバイク置き去り夏の果

連続猛暑の日本列島バテモード

日焼けしたサンダルの跡足湯して

生身魂都合良きこと聞こへけり

ポシェットのスマホが重き日の盛り

子雀の言葉がとても可愛いくて

鰻重をあとかたもなく食べ尽くす

茶碗蒸し銀杏一粒隠れ住む

松原を抜けて走るや水着の子

海の子の海の透けてるラムネ玉

水軍の海を一望墓洗う

黒揚羽華麗に飛ぶは夏の朝

入道雲むくむくむくとのしかかる

相原共良

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

赤瀬川至安

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

上山美穂

卯之町空

卯之町空

卯之町空

梅野光子

梅野光子

イエスマンに徹し疲れて秋遍路
石榴にも秘薬の異聞信じけり
破壊的宙の贖罪白露かな
大西瓜井戸に冷えつつ待つてゐる
行水の檜盥の湯の香り
亡き母を真似七夕のこより繕る
校庭に留守居のごとき百日紅
骨抜き魚の味の涼しさよ
ぺちやくちやとむかしばなしやかき氷
梅雨明けるとたんには鳴きだして
お山開は大雨だらうと氣勢あぐ
おみくじのやうに包まれ落し文
ぼんぼりにわが句も灯る祭かな
一如なりお経の声と蟬の声
盆踊り東京音頭が十八番
カモが寄るトランプ遊びを吉と読み
鍵探す手を休めれば赤とんぼ
キンキンに冷えた葡萄が待つてゐる
もの食えず終戦記念のテレビ見て
風と来て一休みしてる黒揚羽
天の川誰が歌うかネオン川
大輪の花火が咲いた五秒間
海見えぬ甲斐も信濃も雨の月
体育の日非行少年街走り
山女釣一番楽しい前の晩
山女釣釣り場に有るよ魚屋も
釣忍見下しながら世を捨てず
レディガガ巴里の映像極暑なる
箱眼鏡地球の秘密底にある

遠藤真太郎
遠藤真太郎
遠藤真太郎
太田和子
太田和子
太田和子
大林和代
大林和代
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
北熊紀生
木村 浩
木村 浩
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子

べごべごのPET山積み晩夏光
薄明けの刻太鼓ドン今朝の秋
秋燕くると俳句甲子園
梅雨入の犬の不機嫌ウー雨ーウー
線香を雨からかばふ墓参
高学年のクロールらしき水の音
歯を削る音聞く冷房の待合室
酷暑かな蟬の産声弱々し
夏山の腹に廃村傷となり
体温を超ゆる猛暑や蚊は元気
梅雨晴間満艦飾の洗濯物
紫陽花は色あせ猫は痩せにけり
墓じまひする相談を盆にする
香水や昭和女の夜間飛行(ボルドヌイ)
パリコレの先取りのごと秋立ぬ
曲線美張りぼて包む水着かな
ブルーベリー啄む小鳥ら不仲なり
さりげなく一汁二菜冷奴
美しき砂の器や蟻地獄
打ち水を引きずり車走り去る
母と子の戦闘開始夏休み
空に腹向けて泳ぎ子漂へり
雨の日はいいとれた鉦くつつける
吸って一気に吐く近頃上手になりました
杭を打つ夏が集合する畑
青田面を転がつてゐる風の波
じりじりと肘を焦がすや油照
母ちゃんの日傘借用して歩く

くるまや松五郎
くるまや松五郎
くるまや松五郎
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子
佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
壽命秀次
壽命秀次
白井道義
白井道義
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴鹿洋子
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
高須賀溪山
高須賀溪山
高須賀溪山

上には上老人ホームの生身魂
特売場今日もバーゲン夏の服
有り難や今年も元気大根蒔く
白蓮にもらう清らかなる気持ち
サングラスかけ生業は占い師
暑さ忘れる山裾の演奏会
ハイヤーの御迎へ来たり生身魂
夜顔に見られちまつた鍵の場所
糠漬けになる運命や茄子の牛
蝉落つるラジオ体操する横で
クオバディス問い続けてる終戦日
ひとりなら裸で居たきシャワーあと
逃げ惑ふ夢の余韻の籠枕
歯の痛み無きふりをしてかき氷
ひとり居を嘲笑ふかにはたた神
俊足の百足やカーテンよじ登り
秋の蝉階段に来てセミコロシ
盂蘭盆会ネット動画に色比丘尼
来世より今世の処暑乞い歌説法
大うなぎ裂かれ骨のみ踊りけり
故郷に残りしものに蟻地獄
ラジオ体操第一・第二夏終る
蝉しぐれ影で指揮するボスは何処
刀豆を振って踊って兄を斬り
煙草の葉干して束ねて葉巻なり
本当に愛はあるんか天の川
お面にもマスクを付けて夏祭り
たくらみのありそな色の蛇莓
手練手管を弄してをるや女郎蜘蛛

高田敏男
高田敏男
高田敏男
田中 勇
田中 勇
田中 勇
田中やすあき
田中やすあき
田中やすあき
谷本 宴
谷本 宴
谷本 宴
月城花風
月城花風
月城花風
土屋泰山
土屋泰山
百目鬼強
百目鬼強
百目鬼強
長井多可志
長井多可志
長井知則
長井知則
長井知則
永井流運
永井流運
西野周次
西野周次

終戦日令和の前の前のこと

白鷺も安堵道後温泉工事終え

椅子の背も乾杯しているビアガーデン

飼ひ主を髣髴させる羽抜鶏

連日の猛暑に耐へて金メダル

救急車の婆が主役ぞ炎天下

怪我の母に説教できず帰省子等

怪我をして反省をして花火観て

八月の川秋に向かつて流れゆく

夏の欠片の散らかりしまま八月尽

猛暑には冷やしておいしいカレー食べ

馬冷やす今はマイカー冷やしをり

そのまんま馬走る絵の走馬燈

インバウンドの浴衣姿に無情の雨

気まぐれ屋入道雲が怒り立つ

失せやすきものに友情やいと花

生きるとはその日その日よ日日草

酷暑しか言わぬ予報士恨めしい

岩清水右手左手喜ばず

金魚すくい童が命追い詰める

盆踊あだ名同士が輪を繋ぐ

鳴き初めの虫は訥弁宵浅し

風死して湾焦げさうなフライパン

摩訶不思議誰が作りし栗の毬

孫曾孫通訳の要る夏休み

大拍手猿は牙むく夏祭り

蟻の道悪意はないが石を置く

めだかには大き過ぎるぞ宇宙論

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

浜田イツミ

浜田イツミ

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

藤森荘吉

藤森荘吉

藤森荘吉

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

南とんぼ

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

峰崎成規

明神正道

明神正道

明神正道

椋本望生

椋本望生

灸すゑて大暑の候をやり過ごす

蝦夷梅雨ややさしき女を疑はず

水鉄砲勝負は水に托しけり

バナナ売りあばらの形を褒めて売る

丸ごとの地球の日焼じりじりと

言ふまでもなく飲み会のこと暑気払

漂へるくらげに悩みひとつなく

先頭が止まれば止まり蟻の列

宿題の山を遠目に昼寝かな

瓢箪に話しかけたら笑われた

エアコンも息切れをする残暑かな

長き夜の不明の鍵を探す鍵

国会に昼寝の反面教師たち

行く秋の痛み分けなし金と銀

逞しく育ち疎まし夏の草

夏旺ん二の足を踏む朝散歩

忙しくなくはずく鳩や夏の昼

温暖化来るなら来い来い氷売り

温暖化見越す転職氷屋に

暑さ慣れ出来ぬ度合いの暑さかな

盂蘭盆会いつもの顔も高齢化

母に似し羅漢像あり木下闇

草木の弱者消えゆく暑さかな

銀河の中の新星となりわが友は

お洒落な嘘は線香花火続かない

ばかばかしちやうスクール水着の胸カップ

米寿の母特上鰻を平らげる

残暑かなバス停のポールの影伸びて

ペタル踏み風切り行かば青田伸ぶ

金魚草みどりの海をすういすい

みんなの地上の恋は命がけ

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山下正純

山下正純

山下正純

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子